

Brand new you.
出会いがあなたを楽しくする

オープンキャンパス 2013

大阪商業大学

参加申込
不要!!

7/21 sun 28 sun
8/4 sun 10 sat 25 sun
9/15 sun 時間／10:00 - 15:00
(受付 9:30 -)

優しい先輩が声をかけてくれて、大商大の魅力をたくさん聞けるオープンキャンパスは、とにかく楽しい! 大学のことがよくわかる! と大好評。

大商大のオープンキャンパスで、あなたの人生がきっと変わる!

推薦入試直前
オープンキャンパス
10/6 sun 13:00~16:00
推薦入試制度について紹介。
受験前に大学の様子を
チェック!

遠方から
お越しの方へ
宿泊費無料
サービス!

女子のための
オープンキャンパス
6/9 sun 13:00~16:00
ケーキバイキングなど、
女子限定で
開催します!

大阪商業大学
Osaka University of Commerce



14号発刊にあたって

校友会 会長 高岸 嘉治



平素の校友会活動へのご理解とご支援に対して、厚くお礼申し上げます。今年も桜の開花を前後して、卒業生と入学生を送り迎え致しました。65年間の歴史が幾重にも重なり、大阪商業大学魂が歴史と共に移り行く姿に感慨深いものがあります。政権や経済政策の変化のみならず、少子高齢化、女性の社会的活躍、子育て、介護、福祉、領土問題など、私達一人ひとりが関わる事案が多くあります。

2年前の東日本大震災は、いまだ衝撃的な被害が続いております。阪神淡路大地震の被災以来の心が痛む大震災です。全国の校友の皆様が多くのご支援を東北へくださいまして、ありがとうございました。建学の精神『世に役立つ人物の養成』を校友の皆様から今回も教えてもらいました。

日本有数の多店舗『つるは』ドラッグストアー(一部上場企業)の東北地方店群が大きく被災され、社員や店舗の安否も一時不明でした。卒業生の社長様以下全社員がご努力なされ、平成23年度も決算では、前年度より増収増益を達成なされ、平成24年度も引き続き、増収増益を計上なされました。この偉業は敬服の至りです。

ご挨拶

大阪商業大学 理事長・学長 谷岡 一郎

それなりにキチンとリーダーシップを発揮できる人間であって下さい。新入生に対していつも強調していることですが、「大商大に入ったから就職に有利」なのではありません。大商大を「卒業したから有利」なのです。その点で先輩方の活躍には、いつも感謝しております。



校友の皆様、こんにちは。学長の谷岡は相変わらず元気です。早寝早起きを続けているからでしょうか。皆様もまず、夜のおつき合いはほどほどにし、自分の体を大切になさって下さい。大阪商業大学は今年度多くの新入生を向かえ、スタートしました。これまでの新入生の中には、軒も含めて「かなり教育が必要だな」と思われる学生が交じっておりましたが、今年は目的意識を持った学生が多いようです。先生方の言葉をそのまま伝えるなら、今年の新入生たちは「目つきが違う」と言うのです。オリエンテーションを兼ねた一泊研修にも、遅刻者はゼロだったようですし、スタートしてからの出席率も例年より良いとのこと。それだけ大学に期待するものがあるのでしょうか。自然と真剣な眼差しになるのだと解釈しています。彼らをさらに鍛え、新たなレベルに持っていくのが、我々教員の務めでしょう。

自民党政権になって、世の中のムードはなんなく上を向いているようで、良いことだと思います。大商大卒業生はしかし、一時的なムードには関係なく、自己の哲学に従って一步ずつ前進して行けるから大商大卒業生なのです。良い時も悪い時も、

校友の活躍ぶりを拝見する第2回は、
人と“つながり”をテーマに3人の校友をご紹介します。



2011年(平成23年)3月11日に発生した東日本大震災。震災による死者・行方不明者は1万8000人を超え、今も約30万人の人々が避難生活を余儀なくされている。

その被災地の中でも岩手県釜石市の遺体安置所を取材したノンフィクション作家・石井光太氏のルポルタージュが原作の映画『遺体 明日への十日間』(君塚良一監督)が今年2月に公開された。遺体の尊厳に向き合ってきた校友のひとりがそのモデルである。

(おことわり)
本稿は松岡さんを取材された読売新聞大阪本社社会部 伊藤甲治郎記者のご了解を得て、1月31日付け(夕刊)紙面をもとに編集しています。お礼申し上げます。また、「釜石・大槌地域復興情報誌 キックオフ2012年5月特別号」も参照引用しています。

釜石市教育委員会生涯スポーツ課課長補佐
松岡 公浩さん(昭和62年卒)

●早く家族の元へ、ご遺体と向き合う日々

映画では俳優・沢村一樹さんが演じる市職員・松田信次として描かれた松岡さん。その時は大きな揺れに驚き、市教委の庁舎である教育センタービルの屋上に駆け上がったという。ビルは沿岸から1.5キロ離れており、津波被害の実感は薄く、大勢の避難してきた人たちが話す被災の状況を半信半疑で聞いていたという。

震災発生から2日後、「遺体搬送」というそれまで考えたこともなかつた仕事に6月末までの3ヶ月半、従事することになる。

しかし、ダンプカーを運転して向かった遺体の仮置き場、白布が掛けられた5人の遺体と直面し、深刻さを思い知る。泥にまみれており、なかには車内で息絶えた、お腹の大きな20歳代ぐらいの妊婦と3歳ぐらいの女児の親子もいた。これから生まれてくる命と、かわいい盛りの子供。「なんで逃げられなかつたのか…」。手を合わさずにいられなかつたという。

「遺体搬送は、本来は警察が担う業務ですが人出が足りず、市に応援要請が来ました。自衛隊や警察、海上保安庁などが発見し一箇所に仮安置しておいたご遺体を、職場の同僚数名と市立釜石第二中学校(廃校)などの遺体安置所へ運ぶのです。多い時期は1日に30体ものご遺体を運びましたが、日数が経過してくると損傷も進み、思わず目を背けたくなるような光景でした。ただ、市全体でこの震災を乗り越えようとしていましたので、私もただただ必死でした。」

時には、遺族から感情をぶつけられたという。小学生の娘を亡くした女性は、ヘルメットと服に市章が付いた松岡さんを見ると、「ちょっとシヤクショ、何での時、見てただけで助けてくれなかつたの。この人でなし。」こう泣き叫んだという。顔見知りだったが、マスク姿の松

岡さんに気付かないようで、黙って受け止めるしかできなかった。「ご遺体の無念を一身に受けることもありますが、ご遺体をお渡しした時、辛い心境にも関わらず『ありがとう』と声をかけてくださるご遺族もいらっしゃいました。私が最後まで続けられたのもこの出来事があったからだと思います。」

●現実に目を向けて

遺体搬送が続く中、作業を支援してくれた消防団員の中には損傷の激しい遺体に顔を背け、車の荷台に載せる際、早めに手を離す人もいて、ゴーンという音が響く。「丁寧に扱ってもらつていいですか」と注意したという。搬送に使った車は元々、ゴミ収集車だったため、側面に書かれた『考え方ごみの減量』の文字が見えないよう、担架を引っかけて隠した。「人としての尊厳は亡くなつても変わらない。屋根のある、家族に会える場所に連れて行ってあげたい。その一心でした。」

現在、松岡さんはサッカーに明け暮れた学生時代を過ごした関西に思いをはせ、東北から離れた地域の人たちにも、自分が感じたことが伝わってほしいと願っています。「大災害に襲われる可能性は、誰にもある。家族に遺体が届けられるプロセスには何があったのか。死者何百名という数字で表してしまうと分からなくなってしまう、数字ではなく、一人ひとりの現実に、目を向けてほしい。一人ひとりの最後の思いに接してきた私ですから、次に災害では一人の犠牲者も出さないようなまちにしていきたいと思います。」「映画では被災者の本当の気持ち『事実とは違う真実』が見事に表現され、見させていただいて当時を思い出し涙させていただきました。映画『遺体』の製作に携われたことに幸せを感じさせていただきました。」

人としての尊厳は亡くなつても変わらない。

持ち前のガツツと前向き精神で、女性MSとしての道を開拓。

「自分を買ってもらう」人になれ！



就職難が続き、学生は入学時から就職を見据えた学生生活を送っている。自動車販売会社の人事課長を務める大田原さんは、企業と学生の双方が有益となる就職を実現させるため、柔軟な発想で選考に取り組んでいる。

●面接では会話から人間性を探る

「長年にわたって人事課に所属し、大勢の就職希望者を選考してきました。私にとっての選考は、大まかに言えば人となりを見る、というものです。そのため、面接は質疑応答ではなく、会話をしている、という感覚ですね。会社に対する印象を重点的にお聞きはしますが、入社の動機など定番の質問よりも、むしろ人間性が把握できる質問を中心にしています。挨拶や返事がしっかりできるかどうか、人の話を素直に聞く力が備わっているかなど、ですね。社会人としての基本ですから。」

「さらに、やる気がどれだけあるのかも探っています。自分からアクションを起こせる行動力がなければ、この業界では通用しません。車を買ってもらうのではなく、自分自身を信用して買ってもらう、そういう信頼関係をお客様と構築する上で大事な、そういったさまざまなチェックポイントは、何気ない会話をしながらの方が見つけやすいんですよ。」

●メディアや周囲の言葉ではなく、肌で会社を感じてほしい

「面接をしていると、何十社もの企業にエントリーしている学生をよくみかけます。積極的なのは悪くはないのですが、よくよく話を聞いてみると、インターネットや雑誌だけを頼りにエントリーして入社試験を受けるケースも多い。学生には、これは真

の就職活動ではないと言いたいですね。実際に足を運び、自分はここで何をしたいのか、具体的にイメージしてから入社試験に臨んでほしい。周囲の反対を押し切ってでも、この会社で働きたいという強い信念を持たないと、とりあえずという安易な姿勢は、見抜かれますよ。」

●若者よ、打たれ強くなれ

「私も周囲の反対を押し切って当社にやや強引に入社しました。当時の自動車販売業界はキツイというイメージが強かつたからです。でも、今ではその行動力が良かったとつくづく感じています」「半面、近頃の学生に言いたいのは、みんな真面目過ぎる、ということですね。大人しくて自分から積極的に動こうとしないように見えます。周りとコミュニケーションをとつて、もっと自分を出していいと思いますよ。」

ミスを恐れず、思い切ったアクションを起こし、その中で自分を高めていく。そんな学生が増えるといいなと、強く感じるようになりました。打たれ強い人間になれ、と言いたいですね。」



トヨタカローラ南海株式会社
総務部 人事課長
大田原 孝之さん
(昭和63年卒)



榎本薬品株式会社
営業四課
岡田 佳奈子さん
(平成23年卒)

近年、さまざまな職種への女性参加が進んでいる。岡田さんも、医薬品業界で注目されているジェネリック薬品の専門卸会社に、女性MS※第1号として飛び込んだ。ポジティブ志向で彼女は女性MSが戦力となることを証明しつつある。

※MS(マーケティングスペシャリスト)=
医薬品卸業の営業担当者

ま』などと優しく声を掛けていただけるようになりました。そんな時は笑顔で挨拶を返すことでさらに頑張ろう、って意欲がわいてくるんです。」

●女性MSの先駆けとして自覚

「大阪北部を中心に40ある医療機関が私のお客様。意外と医療従事者の皆さんの中でさえ、ジェネリック医薬品が浸透していないことがわかりました。低価格だから効かないんじゃないかな、といったイメージを持たれているようですね。ジェネリック薬品という成長が見込まれる商品を扱っている以上、ジェネリックの正しい啓発活動も私に課せられた仕事のひとつ。それには、お客様と目を見ながら会話がしっかりとできるように、そして懐に飛び込んでいけるようなコミュニケーション力が大事になると思いますね。」

●何も残らない4年間を過ごさないで

「現在、当社には私を含めて女性のMSが3人になりました。この仕事を開拓できることを誇りにしたいですね。」「在校生の皆さんには、卒業後、社会人として生活する以上、苦労することがたくさん待ち受けているので、目的意識を持って4年間を過ごさないと何も発揮できないと思いますよ。」



●面接で熱意を訴え、MS人生がスタート

「就職説明会で女性MSを登用したいと聞いたのが、この会社を選んだ理由。アットホームな雰囲気も大きな決め手でした。実は説明会の後で知ったのですが、会社側は私の採用に躊躇していたそうです。この仕事は女性にはハードだらう。でも、大学で学んだプレゼン力とMSに挑戦したいというガツガツした思いが伝わったようで、私のMSとしての人生が始まりました。ちなみに、当時の採用面接官だったのが現在の上司。当時の印象を聞くと『俺はこいつと働く事になるな、直感的に思った』と話してくれたことがあります。それを聞いて、やっぱりこの会社に入って良かったなと。」

●女性ならではの辛さと喜び

「販売や営業など人と接する仕事に興味があつたのですが実際に仕事を始めてみると、大変。例えば、価格交渉。新入社員とはいえ、競合他社の動向を比較しながら見積もりするのは、交渉力が試され難いですね。商談の時間もお医者様の診療時間に合わせなければなりませんし、重さが10kg以上ある湿布や点滴など納入するのは当たり前。決して残業も少くないので、女性にとっては辛いのですが、ライブ通いと、毎週通っているスポーツジムでのトレーニングで疲れを吹っ飛ばしています。最近は病院や薬局のスタッフの方から『大変だね。御苦労さ

身近なつながりから、大きな輪へと広げていく

石川県支部は、一度は消滅の憂き目に遭いましたが、平成19年に熱心な支部会員により復活。昨年には北陸三県の支部で結束を固め、地道ながらも着実に前進しています。今回の座談会は大学時代の思い出を交え、今後の発展を模索しました。校友会本部からは宇野幸三副会長と竹内行弘理事・編集委員が聞き手として出席しました。



[石川県支部の今後]

廣澤：皆さん本日はお集まりいただき、ありがとうございます。石川県支部は平成19年に発足し、第1回の支部会を開催しました。この年は能登に地震が発生した年で、まだ混乱が続いているようでしたので、羽咋市から南加賀市までの地域を対象に開催のご案内をしました。全県揃っての発会はなりませんでしたが、校友会本部のご協力をいただき無事開催することができました。

振り返りますと、それ以前に石川県支部が存在し、私が支部長をさせていただきましたが、後に支部長の席を譲った後に活動も鈍り、いつの間にか消滅した経緯がございます。その後、校友会からの設立要請があり、もう一度支部を復活させようと会合を重ね、少し残っていた資金と校友会からの援助をいただいて、再び支部を発足することができました。平成24年秋には富山県、福井県両支部との交流を図るべく会合を開き、北陸三県で連携していくことを確認しました。

この席で、各地区の活動状況をご報告いただきましたので、石川県支部をどのように発展させていくかをこれから考えていこうと思います。私としては、石川県の会員の皆さんのが大商大を卒業して良かったと思えるような会にしていきたいと願っています。それではまず、かほく・能登地区の副会長をされている杉本さんから、お話しいただけますか。

杉本：少しでも支部に多くの人の理解を得ようと、3年くらい前に珠洲市まで会員の勧誘に行きました。今後は輪島市周

辺を開拓していきたいと思っています。能登まで行くのに時間もかかりますが、今後も地道に勧説を進めていきます。

久保：私は金沢地区を担当していますが、私くらいの年齢の皆さんは体調を崩している方が多く、あまり出席率が良くないのが事実です。それでも親しい会員同士で交流を深め、その輪を広げていきたいと思っています。

田中：私が担当する小松地区では、小松市、能美市、加賀市の三市を中心に飲み会を開いていますが、飲み会だけでは参加者も増えないため、何かテーマを設けて話し合いをしてみてはどうかなと思っています。またプロジェクトなどを使って現在の大学の姿や学生生活などを紹介していくことで、思い出話だけでなく、大商大の将来展望などにも話題が広がると思います。校友会の方には、こうした協力をぜひお願いしたいですね。

高：金沢、加賀あたりは比較的集まりやすいけれど、能登方面は声がけにも時間がかかりますし、集まるために出てくるのも大変です。今後は皆さんで手分けして地道に働きかけていくことが大切かと思います。

池田：中学・高校の同窓会は比較的集まりやすいですが、大学というと方々に散らばっており、なかなか集まりにくいのが現実です。多くの人に集まつてもらうためには、支部会をもっと魅力的な内容にすることが大切だと思います。大学からいろいろな資料を取り寄せて、今の様子などを紹介していくなど、関心が持てるようにしていきたいですね。

中村：私自身は同期を中心に関係をかけており、さらに名簿を見て近所の方から順に声をかけています。会員に対しては、親睦を深めることも大切ですが、孫のことや健康のことなど情報をいろいろ発信し、参加した人が有意義だと思っていただけるようにしたいと考えています。

宇野：大学でも様々な資料がありますので、必要であればいつでもご連絡ください。他の支部では、文化やスポーツなど各分野の一線で活躍されているOBの方たちにお願いして、講演会などを実施されています。校友会としてもできるだけ協力して、支部の活性化を図っています。

廣澤：私たちも活躍されているOBをお呼びして、できるだけ大勢の方に集まつていただけるように検討したいですね。一度来ていただければ交流ができる、次に繋がっていきます。魅力ある支部会を開いて、輪を広げていきたいと考えます。

[大商大時代の思い出]

廣澤：次に、大学時代の思い出がそれあると思いますが、当時のエピソードや今も記憶に残っていることをぜひお聞かせください。

高：私は昼間部でしたが、夜間部の授業にも出て、社会と商業の教員の免許を取りました。

杉本：私が入学した昭和44年は、学園紛争が激しく、翌年には学校が封鎖されました。

宇野：その封鎖を解いたのは私たちです。当時は警察も学校に入ることができ

ませんでしたので、OBが中心になって学生と話し合い、解放しました。

池田：私の一番の思い出は、山岳部に籍を置いたことです。当時の大商大は体育会系が強く、今でも先輩や後輩から年賀状が届くなど、長い付き合いとなっています。生徒たちにも体育系、文化系を問わず、必ずクラブに入ることを勧めています。上下関係の交流ができ、そこで社会に役立つことを学べるからです。

廣澤：私は少しジェネレーションが違うようで、私たちの頃はまだ学生運動が本格化する前で、大学自体もオーソドックスでした。講堂でドイツ語の授業がある時は、大勢の学生が集まって、あの講堂が超満員になるほどでした。当時はまだマイクがなかったので、先生が声をからして、あめ玉をなめながら授業を行っていましたね。

宇野：学生運動が沈静化した頃にクラブ活動に力を入れ、野球部やサッカー部、空手部などが全国制覇をするなど、今の土台を築いてきました。

杉本：当時ボーリングブームで、寮から八戸ノ里のボーリング場へ良く行きました。

宇野：ボーリング部を立ち上げたのは僕なんです。でも僕は一球も放ったことがなかつたんですけどね(笑)。

[今の在校生に伝えたいこと]

廣澤：なかなか話が尽きませんが、統一して在校生に伝えたいこととしては何かありますでしょうか？

小原：今企業は試験によって採用や昇進が決まります。できれば在学中に国家資格を取っておくと、社会に出た後も有利なことが多いようです。そうしたバックアップを大学として実施していくと良いですね。

池田：企業の採用試験で重要なのが面接試験です。私も最近では模擬面接の面接官をしており、生徒たちともいろいろ話したりしますが、部屋の入り方から出るまで一挙手一投足を細かくチェックします。実際にはかなりシビアな企業もあるようなので、大学側でもしっかりと面接対策をしていくことが大切だと思います。

高：声の出し方やお辞儀の仕方などはもちろん、ドアの開け方や椅子の座り方など細かい点までチェックしますね。面接会場も様々で、学生たちはどんな状況でも対応できるようにしていかなくてなりません。またプレゼンテーション能力や表現力など、多くのスキルを求められます。学生自らもこうした能力を高めることが重要ですが、大学としても早い段階から、これらの能力を身につけるように指導していく必要があります。

廣澤：今はコンピューターで数字を入力すれば簿記なども簡単にできてしまう時代です。しかし単に数字を入れるではなく、なぜそうなるのか学問の根本を掘り下げ、自分のために役立ててもらいたいですね。

(収録：平成25年2月24日)

石川県支部出席者



石川県支部長
廣澤 郁夫
(昭和32年卒)



石川県副支部長
田中 俊和
(昭和50年卒)



石川県副支部長
久保 亮一
(昭和40年卒)



石川県副支部長
杉本 正一
(昭和48年卒)



石川県監査
中村 直彦
(昭和50年卒)



石川県幹事
小原 達夫
(昭和45年卒)



石川県幹事
池田 典明
(昭和48年卒)



石川県幹事
高 誠逸郎
(昭和40年卒)

校友会本部出席者



副会長
宇野 幸三



理事・編集委員
竹内 行弘



遷宮とみえ

三重県支部 副支部長 東村 篤(昭和46年卒)

2013年(平成25)は、伊勢神宮(正式には「神宮」、内宮・皇大神宮、外宮・豊受大神宮はじめ125別宮・摂社・神宮)の第62回式年遷宮が斎行されます。関係で伊勢へのみえ歴史街道、名所旧跡は連日大賑わい、旧神領民、特別神領民によります民俗行事「お白石持」(7月26日~9月1日)など御遷宮関連行事の対策・対応で三重県支部校友の多くは地域活性化へと東奔西走しております。

遷御の儀が、内宮10月2日、外宮5日、両宮とも20時をもって斎行されご正殿は東御敷地(米坐・米座こめくら)から西御敷地(金坐・金座かねくら)へ内宮は天照大御神(太陽の象徴・御靈代御鏡)、外宮は豊受大御神(大御饌都神)のご祭神がお遷りになります。神宮の祭り事は、年間1,500以上に及び遷宮は、690年(持続4)の第1回

から1300年もの間続いており我が国最大の行事で御造営経費は550億円、関係団体民間等から募財されています。

式年遷宮とは20年に一度ご正殿、ご装束、ご神宝など1,576点すべてが生まれ変わる発想・知恵の制度で変わらぬ姿は文化、工芸技術・素材の伝承が支え拝美を願い永遠、常若を目指しています。古材等は、全国169神社等に再活用されております(第61回実績)。鎌倉時代から木曾檜1万2千本余を御用材としていますが1923年(大正12)から「宮域林再生二百年計画」に基づき毎年植樹し森を育てています。神宮では、森が雨を吸収し流れる清水は、楠部の神田で稻を育て、御薙で野菜を育て、伊勢の海にそいで海藻類や魚類を育て二見には御塩を精製しています。自然循環型システムの範と言えましょう。



賑わう伊勢へのみえ歴史街道(旧東海道・関宿)

●支部連絡先／〒518-0125 三重県伊賀市上郡41-1 中田勝仁様方 TEL.0595-37-0010 FAX.0595-37-0010

築城400年記念事業への取り組み

北摂支部 副支部長 谷林 喜久治(昭和40年卒)

大阪商業大学兵庫北摂支部は、川西市・猪名川町及び大阪府豊能地域をエリアとして発足、今年で16年目を迎えております。その間校友会本部、並びに各支部の皆さま方には色々とご教示いただき感謝しております。

さて、私は、生まれも育ちも能勢であり「井の中の蛙」の如く世間なれをしていない。しかしながら、能勢地方には多くの歴史があります。

戦国時代、能勢の丸山城を本拠とした能勢頼次公は天正10年(1582)の本能寺の変で明智光秀に加勢するが、光秀滅亡後は能勢を追われ備前の国へ落ち延びた。しかしその後、関ヶ原の戦いで徳川家康に属し戦功を立て再び能勢の地で3,000石余り

を与えられ旧領を回復、陣屋を丸山城から地黄城に移しました。

能勢地黄城(後に預かり地を含め6,300余石と言われている)も規模は大きくなり、大名普請の城として築かせたものであります。能勢氏中興の祖、能勢頼次公が元

和元年(1615)に築いた陣屋城で現在も立派な石垣と大手道が保存されております。石垣としては旧摂津の国では、大阪城以外には能勢地黄城跡にしか遺つていません。

私たちは、当地方で類のない、戦国乱世から天下統一にいたる貴

重な城跡を護っていく責務があるものと思い、来る、平成27年(2015)に能勢地黄城築城400年記念事業を推進すべく取り組んでおります。機会がありましたら是非能勢の地へ足をお運びください。



●支部連絡先／〒666-8501 川西市役所議会事務局内 久保義孝様方 TEL.072-740-1111 FAX.072-740-1318

さらなる交流の場が広がることを願って、全国各地で活動を続いている各支部からのお便りを紹介いたします。

関東支部創立50周年を迎えて

関東支部 支部長 岩野 邦久(昭和39年卒)



氏の大変な苦労と努力によって今日の50周年を迎えることができた。50年の歴史の中には糾余曲折もあったと聞いている。それが今日の支部活動の原点となっている。関東支部の活動は校

友会15支部の中で他の追随を許さない充実したもので、毎月の勉強会や近隣支部との交流を通じて、後輩から信頼される支部として活動を続けている。母校の建学の精神である『世に役立つ人物』として社会に貢献出来る人物育成に力を入れている。

少子化で大学受難の時代、間もなく大学は半減へと向かう。近年の大学は大学として社会の評価を失ってい

て、就職してからも社会から歓迎されない。その中で母校出身の後輩が社会で歓迎され、期待され続けるためにはOBの支援が欠かせない。政治経済の中心地である関東地区で他校の卒業生に負けない活躍を続け、母校の名聲を高めて行くために今年から『士(サムライ)業の会』『経営者の会』を発足させ、情報と人脈のネットワークを更に構築し、校友活躍のバックアップ活動を展開していく。



●支部連絡先／〒113-0033 東京都文京区本郷1-10-13-201 東京メディア工房・スペース気付 TEL.03-3818-2287 FAX.03-3818-2227

沖縄観光と今後の課題

沖縄県支部 幹事長 当山 勝正(昭和54年卒)

沖縄観光の入域数は平成24年583万5,800人(前年541万5,500人)でした。ハワイは平成23年ですが728万人です。

観光振興基本計画における平成33年度達成目標数値は観光収入1兆円・入域客数1,000万人(国内客800万人、外国客200万人)をいう目標を設定しました。達成する為には、以下の課題に取り組む必要があります。

- ①那覇空港滑走路の増設の早期着工が望まれる(着陸回数が1本では限界に来ている)。
- ②新たな路線開拓や国内外LCC(ローコストキャリア)の活用 着陸料等減免措置等により空港路線数及び提供座席数の増加を図ること。
- ③公共交通機関の整備で「渋滞の緩

和」に繋げる。
④リゾートウェディング・スポーツキャンプなどの取り組みと国際的なイベントや新たなエンターテインメント機能の充実を図る。

- ⑤観光客一人当たりの県内旅行消費額を高める。
- ⑥観光産業従事者の労働環境改善を図る。

- ⑦長寿県イメージの復活に向けて取り組む。又観光立県として県民一人ひとりが観光の重要性を認識すること。
 - ⑧米軍基地や尖閣問題 地震・津波・台風など観光に影響を及ぼすリスク要因への対策を図る事。
- 以上の8項目を最重点課題として取り組み平成33年度の目標に向けて各関係機関が一丸となり達成できる



よう進めなければいけない。インターネットの普及により世界は急速に「狭く」なりました。ネットの世界だけでなくリアル(現実)の世界で沖縄を「近い」ところとして実際に体験してもらうことは十分可能です。LCCの世界的な普及が海外旅行に対するバリア(障害)を取り除いています。あとは世界に響くメッセージの発信とホスピタリティーあふれる受け入れ体制の強化が必要です。

●支部連絡先／〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖3-3-1 前島明男様方 TEL.098-877-1886 FAX.098-877-1886

歴史都市「高岡」



富山県支部 中村 修一(昭和44年卒)

高岡城を築き町を開きました。この地を「水陸交通」の拠点とし経済の中心として城下の繁栄をもたらしました。跡目を継いだ前田利常により商工業の町へと一層の発展をしていきました。

利長は慶長16年(1611)この地に鋳物師七人を招き

土地を与え鋳物の生産にあたらせ全国有数の産地に成長させ、あわせて銅器製造も始まり梵鏡や仏具は全国屈指の産地となりました。

平成26年に待望の北陸新幹線が開業します。県西部唯一の停車駅として現在着々と拠点づくりが進められています。

利長は隠居後の慶長14年(1609)富山県西部に位置する「高岡市」は平成21年に開町400年を迎えた歴史と文化の香り漂う城下町です。地名の由来は中国の詩集「詩經」にある「鳳凰鳴矣彼高岡」「鳳凰鳴けり彼の高き岡に」という一節から加賀藩前田家二代目当主、前田利長公が名付けたとされています。

利長は隠居後の慶長14年(1609)

歴史と文化遺産豊かな高岡の「ま

ちの魅力」を最大限に発揮し、交流、観光のまちとして文化的基盤を生かし地域の活力向上に向けて官民一体となり都市計画が進められています。行ってみたい、住んでよかつたと「選ばれるまち」になる為に「共創」のまちづくりが進められています。万葉の歌人、大伴家持の歌で知られる

わがまち高岡は新幹線開業を機にその魅力を全国に発信していきます。



●支部連絡先／〒939-2649 富山県富山市婦中町余川16 櫻藤井産業内 藤井泰三様方

TEL.076-469-3007 FAX.076-469-3536

更らなる発展祈念して



京都府支部 南 和男(昭和41年卒)

昭和40年設立35周年記念論文で一席になり、副賞に海外留学40日がありました。その当時、海外に行く人は近所では誰もおられません。また外貨は500ドルが限度の

持ち出ししか出来ませんでした。ヨーロッパの大学及び自動車会社を見学して帰ってきました。

私の論文は『日本の自動車産業』その当時は日本で自動車会社は1~2社しか残らないと言いましたが私は1~2社は倒産するであろうが、との会社は残ると分析しました。現在、日産・トヨタ・三菱等会社が残っています。

京都府支部は七年を経過致しました。序々に歴史も出来、風格もできてきたように思います。新たに執行部役員が選任され安田支部長のもとに総会も終り、更らなる発展が期待されます。これから2,000人のOBをまとめられていかれると思います。

私ごとになりますが、クラブは文化系の「経済研究会」に属していました。

います。プリンス自動車が日産と合併になった丈です。それは各社の工場の現場を見学した結果にもとづいて論文を作り、又ベンツ・フィアット・ルノーの工場を見学して確信をもちました。

現在グローバル化と言われる状況でOBとしてなにが出来るかと言うことで、経済研究会の論集『ミール』で優秀な人、2~3人を片山副学長に選んでもらって、五年間韓国とオーストラリアへ無償でつれていきました。利他の行為をすることと、感謝と懇意の情をもつことが役立つ人材をつくることになります。

今後も頑張って品格と徳を積むよう努力していきます。京都府支部の更らなる発展を期待します。

●支部連絡先／〒612-8016 京都府京都市伏見区桃山町養斎21-20 小川敬雄様方 TEL.075-612-1580 FAX.075-612-1580

さらなる交流の場が広がることを願って、全国各地で活動を続いている各支部からのお便りを紹介いたします。

高知で活躍する会員の紹介

高知県支部 支部長 川崎 洋輝(昭和41年卒)

第一回目は創業90年のお茶屋さん株式会社岩井屋を経営されている岩井貞雄さんです。岩井さんは商学部を昭和61年に卒業後、岩井屋へ入社され、3代目社長の父親のもとで修行してきました。平成15年に父親の死去の後、第4代社長として経営に取り組んでいます。

岩井屋はお茶の加工と販売を行う会社です。創業者は曾祖父で高知市の中心街に店舗を構えて営業を開始しました。昭和42年には営業拠点を郊外へ、工場を南国市へ新設して需要増に対応してきました。従業員数は10名で年間売上高は数千万円の規模です。

製品は高知県産のお茶「土佐茶」を加工した緑茶です。清流の四万十川や

仁淀川流域の山間地域で収穫されたお茶(荒茶)を厳選して仕入れ南国工場で加工しています。加工は大型の加工機を使用して行われますが、この際の荒茶のブレンドの仕方と火加減に岩井流のノウハウがあるようです。高級品「煎茶龍馬」は深みのある濃い味で人気があります。

販売先は県内の販売店が90%、県外の問屋が10%の割合で大半が高知県内で消費されており、高知県産業振興計画の方針の一つ「地産地消の推進」に貢献しています。

業界はペットボトル飲料の増加等による家



●支部連絡先／〒781-2123 高知県吾川郡いの町天王南3-6-5 西村慎一様方 TEL.088-891-6732 FAX.088-891-6732

理想追求型保険代理店の運営について

愛知支部 副支部長 日高 克毅(昭和55年卒)

2005年に外資系生保管理職から独立し、社員数10人程度の生損保乗合代理店を設立しましたが、すべての取扱保険会社で特級資格を維持するのが難しく、一定以上の規模が確保できないという悩みを抱いていました。

保険ビジネスは稼ぎ続けるとお客様に対して保全(保険金・給付金支払等)を実行することができます。稼ぎ続けることがひいてはお客様を守ることになりますから、規模の拡大、安定した運営につなげるためにはその環境をより合理的にローコストで作りあげることが理想であり夢だったのです。

会社が管理業務を請け負うことは非常に大きいコストがかかりますので、あくまでも全体の管理監督業務を

することを優先し、個々のお客様の保全をするのは営業担当者だと結論付け、その対価として報酬をしっかりと支払うことになりました。

運営管理者である役員は単なる役割分担でしかなく、営業担当者の中で任命された人が管理者の長であるだけです。売上からマージンを取って運営を管理しようという発想ではなく、管理業務に関しては報酬を受取っていません。一般的の会社組織であれば出資した人が社長でストックされた資産はその人に権利があると思います。ですから、委任された人は大変です。自分で稼がなければいけないし、運営もしなければなりません。

会社に入る売上を包み隠さず社員に伝え、公平な報酬分配を実現し、運

営費を最小限に抑えることが、理想であり夢であった会社を作り上げることができた一番の要因ではないかと思います。

2013年3月現在グローバルアイティアル株式会社 代表執行役会長 日高克毅

本店岐阜市 全国17オフィス 社員数約130名、取扱保険会社約40社、売上全国ベスト10以内

昭和55年卒
名古屋鉄道入社 平成7年
ソニー生命入社 平成17年
独立開業 現在に至る



●支部連絡先／〒474-8651 愛知県大府市横根町名高山55 至学館大学・同短期大学部 気付教務課 杜下憲央様 TEL.0562-46-1218 FAX.0562-44-1313

校友会 | 支 | 部 | 便 | り |

里帰り御厨祭に想う

広島県支部 専務理事 渡辺 高守(昭和49年卒)

広島県支部は、平成21年以来、地域で開催される祭りに参加する等、地道な活動から校友の輪を広げてあります。そんな中、十月開催の御厨祭に参加しました。参加にあたり第二の心で青春の足跡の一部でも発見できるかなと思っていましたが、四十年の歳月はキャンパスの風景を大きく塗り替えていました。

当時の面影を探すどころか新館が建ち並び、近代化されたキャンパスに多くの女子学生が笑顔で行きかう光景に、只々驚くばかりでした。そんな驚きの中、校歌に謳われている「百尺高き時計台」の「谷岡記念館」を見上げると瞬時に四十年前の青春時代に戻ることができました。

時は過ぎ去るものですが青春時代

の足跡を見つけた時、四十年余の時間を巻き戻すことができました。この時代があり今日があることを実感いたしました。可能な限り大商大の歴史の語り部としていつまでも「谷岡記念館」を存続していただきたいと思

います。

そんなことを思いながら「時計台青春の時 永遠に」と手帳に書き記し、青春の時計を現在時刻に合わせ思い出多き大阪を後にしました。



●支部連絡先／〒738-0025 広島県廿日市市平良1-9-16 白井時計店内 白井勝秀様方 TEL.0829-31-0100 FAX.0829-31-1158

大阪商業大学校友会に思う

岡山県支部 幹事長 内山 満義(昭和51年卒)



大学創立65年を迎え、今や6万人近くの卒業生が社会で活躍されていることと拝察いたします。在学中は適当

に勉強やスポーツを楽しんできただけのように思いますが、母校の建学の理念である「世に役立つ人物の養

成」は常に肝に銘じ、親しみをもって接してまいりました。また私の座右の銘として「人生燃えながら暮らすこと」も心がけております。

ところで2011年に岡山県支部が発足して今年、支部の「集い」も4回目を迎えております。これも県下の多くの諸先輩・校友の熱意によるものと深く感謝しているところです。そして、さらに「会」の発展をめざし、本年は60名以上の参加者を目標に幹事役を務めてまいります。

岡山県支部は、現在も、これからも同郷のよしみで交流と友情の輪を広げ、一層「絆」を深めていきましょう。皆様のご協力のほどお願い申し上げます。

●支部連絡先／〒703-8267 岡山県岡山市中区山崎301-58 永田嘉男様方 TEL.086-276-9054 FAX.086-276-9112

さらなる交流の場が広がることを願って、全国各地で活動を続けている各支部からのお便りをご紹介いたします。

愛媛の偉大な詩人

愛媛県支部 事務局長 工藤 憲治(昭和48年卒)

にのこっていましたのでご講演をお願いしたしたいです。

真民先生は熊本にお生まれになり、熊本で教員となりました、そして朝鮮に渡り師範となって国語を教え、終戦後愛媛に定住され高校の教員となり58歳の時に伊予郡砥部町に定住され、97歳で永眠されました。

真民先生には、数多くの詩がこされています。教科書にも詩が載っています。

詩には、「念じれば花ひらく」・「かなしみ」・「朝夕」・「二度とない人生だから」など沢山有ります。その中でとても有名な詩は「念じれば花ひらく」です。ご紹介します。

念すれば花ひらく 苦しいとき母がいつも口にしていた



愛媛県支部も今年で3年目を迎え、定期総会には大学・校友会本部・校友会各支部より多数のご来賓をお迎えし行いました。そして総会の講演会では坂村真民記念館の館長西澤孝一様より愛媛の偉大な詩人である坂村真民先生の人生と詩の魅力についてお話を頂きました。私が真民先生の詩と出会ったのは子供が小学生の時、会で始めて詩を聴きました、その詩が心



この詩は、何事も一生懸命命ずる

ように努力すれば、自ら道は開けると言う事であると解説されました。

西村館長による講演で、真民先生の偉大さを再確認させて頂きました。

記念館は、愛媛県伊予郡砥部町にございますので、愛媛県に来られた時には是非ご来館され多く詩にふれて頂ければ幸いです。

●支部連絡先／〒793-0030 愛媛県西条市大町1215-1 工藤憲治様方 TEL.0897-56-1572 FAX.0897-56-1527

設立2年目を迎えて新たな挑戦!!

福井県支部 支部長 清水 久通(昭和48年卒)

期待したいものです。景品有ります。また、福井支部は小さい県ですが、約400名の会員が16支部に点在し、支部ごとに世話役の幹事16名を配置し、きめ細かい伝達網で組織されています。会員の慶弔など、分かった場合は、事務局へ連絡、そして電報で対応し、仲間意識の連携と絆をとりながら、輪を広げて行くことを決めました。

どこの支部でも悩み事といえば、参加者が少ない。1割前後とお聞きします。福井支部も会員数41名でした。

役員で話し合った結果、先ず講演者の選定が重要だということになりました。現在、本部に打診中。懇親会の中にカラオケ大会を導入することが決定しました。点数の出るカラオケ機器も併設しているので、プロ様々の参加者に

ための、母校および校友会への協力並びに連携を図るための一時のオアシスです。毎年参加して楽しみましょう。

一人一人が新たな挑戦を!!



2012/06/03

平成24年9月2日 滋賀県支部設立

滋賀県支部 支部長 亀田 彰喜(昭和46年卒)

平成24年9月2日(日)に大津プリンスホテルで設立総会を開催いたしました。谷岡一郎学長はじめ高岸映治会長、宇野幸三副会長のご出席を頂くと共に大学事務局及び関東支部、石川県支部、京都府支部、三重県支部、岡山県支部、愛媛県支部より支部長及び代表の方のご参加を頂きました。改めて、お礼を申し上げます。

最初に、数名の卒業生にお手紙を差し上げて、平成23年9月18日に初めて5名が集まりました。名刺交換から始まり、その後、6回の準備委員会の後、前述のようにやっと設立総会を開催するにいたりました。

当日は、支部長自らが「大学の社会的評価と同窓会の意義」という演題で基調講演を行いました。現在の大学

の実態や大学の認証評価および教育・研究評価についてお話しとともに、大学を評価する基準についても述べました。更に受験生が大学を選ぶ基準についてもアンケートの結果をもとに紹介し、そして受験生確保の方法と同窓会の役割についてお話しすると共に、大学の就職活動の支援

の実情についてもお話をしました。現在、滋賀県支部は役員が10名程度ですが、更に役員として協力いただける方を募集すると共に、随時、親睦会や、母校の発展を支援する事業を、他府県の支部のアドバイスを頂きながら進めていきたいと考えております。



●支部連絡先／〒522-0026 滋賀県彦根市大堀町577 堤健朗様方 TEL.0749-22-5411

第二の人生!地域教育の学習支援に

兵庫御厨会 副会長 野崎 治(昭和45年卒) 兵庫県宍粟市教育委員会(適応教室指導員)



現代の教育課題は多種多様、多難であり、いじめ、インターネットによるトラブルから自殺、不登校など、子供達を取り巻く教育問題は深刻である。

私は、5年前、小学校長を定年退職後、宍粟市教育委員会「さつき教室」の適応教室指導員として、特に不登校の課題を持つ小中学生の学習支援に携わっている。

また「兵庫御厨会」副会長として、大学建学の精神「世に役立つ人物の養成」をめざし、若手教員の育成や教員採用試験合格に向けての「研修会」

●支部連絡先／〒679-4154 兵庫県龍野市揖保町西構517 福田義道様方 TEL.0791-67-1432 FAX.0791-67-1432

「愛」であり「かかわり」であり「継続」であると確信し、行政、関係機関、カウンセラーと共に日々の学習支援や課外活動を通して温かな「居場所づくり」に努めている。特に宍粟市は自然環境に恵まれ、登山や農作業での野菜作り、地域、園児との触れ合い行事等への参加を通じてコミュニケーションや、「生きる力」の育成を図っている。また、月一回の保護者会で研修や交流会を通じて絆を深めている。時間はかかるが、日々の子供達の笑顔と共に必ず成長があると確信し、今日も子供達と明るく活動している。

さらに今後は「御厨会」としての活動を全国組織として広め、母校との連携のあり方を得るなど、私自身、微力ながら活動していきたいと思っている。感謝。



教員採用試験勉強会

[大学の取り組み]

平成24年度 卒業生の就職状況

東日本大震災の復旧復興の遅れはあるものの、政権交代によって打ち出されている様々な施策から少しずつではあるが経済回復の兆しが見え始めた中、雇用について依然厳しい状況であることはご承知のとおりである。しかし、米国でのサブプライムローン問題からリーマンショックへつながった世界規模での金融危機、就職氷河期と呼ばれたバブル崩壊時に比べると業界・業種、職種に偏りはあるものの雇用・新卒採用状況はかなり回復している。

一方学生動向といえば、有名一流企業へのエンタリーが集中する、いわゆる「大手ブランド志向」が依然続いている。要因の一つに過度な保護者の関与が考えられ、本人の意思とは裏腹に安定を求める考えがあり、影響も大きい。本学では、「大手企業=安定」ではないことを理解させながら、「中堅中小企業の魅力」を伝え、自ら企業研究することを促している。

企業の採用動向については、求めるレベルの人材だけを採用し、採用計画数は満たさなくともかまわないとされる「量より質」という企業が9割を超えており、その質を確かめるために企業は様々な採用試験を行っている。中でも近年最も多く取り入れられているのは、コミュニケーション・プレゼンテーション能力や協調性を図るグループディスカッショ

ンで、5~8名で1つのテーマについて議論させる。面接試験では業界への明確な動機及び受験先企業への就職意欲・情熱が重要視されている。企業からの本学学生のイメージは、体育会系がほとんどで、とにかく元気で体力自慢の学生が多く在籍していたという一昔前までのイメージから現在は、素直でまじめ、明るくて礼儀の正しい学生との評価を受けている。しかし、説明会や選考会で「質問はありませんか?」の問い合わせに対し、質問をしない学生が大半で積極性が見られないという声も多く聞く。

そこでキャリアサポート室では、社会人と対話のできる「大人と話そう会」や「キャリサポ塾」といった低学年から参加対象にしているプログラムや、3年生対象の就職活動講座など参加型座談会形式を採用することにより、発言できる場を多く提供し、学生の積極性を養っている。

なお、地方から来ている学生については、地元での就職を強く望む学生も多いため、毎年学内でUターン就職セミナーの開催、大阪商業大学卒業生組織で構成されている「校友会」との連携から希望進路実現のため全力で支援している。

今後、より一層校友会との親交を深めていくことが学生にとって、更なる励みとなることは必然、今後ともご支援の程、何卒、よろしくお願い申しあげます。

卒業生数(前年)	就職内定率(前年)	進路内定率(前年)
922名(887名)	95.8%(95.2%)	96.5%(96.2%)

出身県別2014年3月
卒業予定者数

北海道	0	滋賀県	30
青森県	1	京都府	55
岩手県	0	大阪府	457
宮城県	0	兵庫県	144
秋田県	0	奈良県	100
山形県	0	和歌山県	76
福島県	1	鳥取県	20
茨城県	1	島根県	13
栃木県	1	岡山県	28
群馬県	0	広島県	12
埼玉県	0	山口県	6
千葉県	0	徳島県	13
東京都	1	香川県	35
神奈川県	1	愛媛県	13
新潟県	5	高知県	15
富山県	5	福岡県	1
石川県	4	佐賀県	0
福井県	15	長崎県	1
山梨県	0	熊本県	6
長野県	2	大分県	0
岐阜県	2	宮崎県	2
静岡県	5	鹿児島県	4
愛知県	2	沖縄県	4
三重県	20	外国	9

平成25年度入学生 都道府県別状況

(男子)(女子)総数	(男子)(女子)総数	(男子)(女子)総数	(男子)(女子)総数
北海道	石川 4 1 5	和歌山 43 9 52	長崎 3 3 3
青森	福井 16 1 17	鳥取 13 13	熊本 4 1 5
山形	長野 2 2 4	島根 10 10	大分 1 1 2
福島	岐阜 3 3	岡山 25 2 27	宮崎
茨城	1 1	静岡 7 3 10	鹿児島 1 1
栃木	愛知 1 1	広島 5 5	沖縄 2 2 4
埼玉	2 2	三重 13 4 17	徳島 3 3 6
千葉	1 1	香川 14 7 21	外 国 8 7 15
東京	1 1	京都 37 4 41	愛媛 26 2 28
神奈川	大阪 446 50 496	高知 16 3 19	
新潟	兵庫 127 18 145	福岡 3 3	
富山	4 1 5	奈良 85 10 95	佐賀 1 1 2

合計 … (男子)943 (女子)136 総数／1,079名

都道府県別 在籍(2~4年)状況 (H25.4.1)

(男子)(女子)総数	(男子)(女子)総数	(男子)(女子)総数	(男子)(女子)総数
北海道	3 2 5	石川 20 2 22	和歌山 184 31 215
青森	1 1	福井 33 2 35	長崎 4 4 4
山形	2 2	鳥取 44 6 50	熊本 13 3 16
福島	2 2	島根 24 3 27	大分 1 2 3
茨城	2 2	岐阜 7 3 10	宮崎 7 1 8
栃木	1 1	静岡 34 9 43	鹿児島 4 1 5
埼玉	1 1	愛知 8 1 9	沖縄 2 5 7
千葉	4 4	山口 16 2 18	徳島 24 5 29
東京	3 1 4	広島 34 9 43	外 国 9 9 18
神奈川	3 1 4	大阪 137 22 159	高知 45 5 50
新潟	5 1 6	兵庫 14 4 18	
富山	8 6 14	奈良 245 36 281	佐賀 3 3

合計 … (男子)2,934 (女子)441 総数／3,375名

～日本学生支援機構奨学金を利用していた卒業生(校友)のみなさまへ～

返還猶予制度のご案内

母校在学中に日本学生支援機構奨学金を利用していた卒業生のみなさまにおかれましては、現在返還中の方、すでに完済された方さまざまいらっしゃると存じます。

現在、奨学金を返還中のみなさま、返還猶予が困難な状況に陥った場合、所定の手続きをすることで返還が猶予されたり、1回あたりの返還額を減額したりできる制度があることをご存知ですか?

問合せ先 奨学金返還相談センター 返還ナビダイヤル
TEL.0570-03-7240(8:30~20:00) 一部携帯電話・IP電話等から03-6743-6100

日本学生支援機構ホームページ <http://www.jasso.go.jp>(※手続きに必要な用紙のダウンロードもできます。)

でしょうか? 所定の手続きを経て、返還猶予が適用されると、延滞金が課されたり、法的措置が取られたりすることはありません。

もし、現在、奨学金の返還猶予が困難な状況下におかれているにも関わらず、返還が滞ったままになっておられる方がおられましたら、ぜひ、返還猶予の手続きについて日本学生支援機構へご相談ください。よろしくお問い合わせください。

大商大ビジネス・アイデアコンテスト

大阪商業大学では、社会的要請に応えるために1998年より「起業教育」に取り組んできました。大阪商業大学における「起業教育」の目標は、必ずしも起業家を育成するのではなく、起業家精神の涵養と起業的な資質・能力を育成することです。そして、企業に就職したとしても、自分自身で決断して行動できる人材、またチームを率いてそのリーダーとしてプロジェクトをすすめられる人材を育成することを目標としています。

大商大ビジネス・アイデアコンテストは、起業家精神の涵

養と起業的な資質・能力の育成を目標として、本学の学生・大学院生を対象として2003年度から毎年実施する新しい商品・サービスやビジネスモデルのアイデアを競うコンテストです。

第10回では、自由部門と新規に企業からの課題に取組む課題部門を設置しています。企業と連携し、新しいビジネスモデルや商品などのアイデアを考える取組としています。学生のビジネススキルを磨くとともに、優秀作品の商品化によって地域振興へも貢献したいと考えています。

大商大ビジネス・アイデアコンテストは、起業家精神の涵

学長賞

●経営学科2年 田中 伸我 「着火線香」

副学長賞

●経営学科3年 岸畑 雅美 「ポップコーンブーケ
～大切な人の大切な記念日に～」

東大阪商工会議所会頭賞

●商学科2年 林 亜祐美 「いいとこいいっぱい
いしきりん かるた」

特定非営利活動法人東大阪地域活性化支援機構 理事長賞

●経営学科4年 大西 七瀬 「イヤホール ジャンクション」

審査員特別賞

●商学科4年 寺西 和也 「Remains 遊園地潜入ツアー」
●商学科3年 水原 春佳 「絶景!! 夕焼けガイドブック」
●経営学科2年 長崎 悠 「トアノブカラーアート」

企業賞

●商学科2年 金田 謙平 「なくしても見つかる 双子ストラップ」
●経済学科2年 八木 有人 「ふんわりと匂いのする携帯カバー」
●公共経営学科2年 松井 歩美 「Thank you mama! キット」
●公共経営学科2年 山崎 大 「ワイヤークラフト組立キット
～楽しくリハビリ～」

※平成24年10月入賞時の学年表彰となっています。



ファイナリストによるプレゼンテーションの様子

協力企業

- 合同企業いしきりん、株式会社せのや
「いしきりん」グッズの開発: 目指せ! 大阪を代表するおみやげ
- ZAO(株式会社テクノロジーネットワークス)、NPO法人スマイルスタイル
「ユメコラボ」を使ったビジネスアイデア
- 株式会社サンクレス
「携帯電話のアクセサリー: キラキラ・わくわく・ドキドキする商品アイデア」
- 株式会社Dreams
「ポップコーンを使ったアイデア: 一生の思い出になるサプライズプレゼント」
- 日本化線株式会社
「カラーワイヤーを使った商品アイデア」



副学長とファイナリスト



協力企業と企業賞受賞者

親子3世表彰について

この度、大阪商業大学では、親子3世代(祖父母、父母、孫※)にわたり本学に入学された方々に対して、大阪商業大学への愛校心を涵養する制度として「親子3世表彰制度」を設けました。校友会員の皆様の中に、大阪商業大学および大阪城東大学を卒業され、3世代まで大阪商業大学を卒業(在籍)されておられましたら、学生生活課までご連絡ください。ささやかではありますが、大学祭期間中に感謝の意を表したく思います。(※3世代は原則、直系とします。退学・除籍者は対象となりません)

7月末日までに、学生生活課へご連絡ください。

連絡先

大阪商業大学 学生生活課 TEL.06-6782-2297 FAX.06-6781-8438
E-mail:oucsss@oucow.daishodai.ac.jp

谷岡一郎 理事長 藍綬褒章 受章

平成24年11月2日(金)政府より平成24年度秋の褒章受賞者712人が発表され、本学園の谷岡一郎理事長が藍綬褒章を受章されました。

藍綬褒章は、勲章と同様に国の栄典であり、内閣の助言と承認に基づいて天皇陛下から授与されるもので、6種の褒章が設定されています。藍綬褒章は、教育・衛生・防疫の事業、学校・病院の建設、水産の繁殖、商工業などの発達等、公衆の利益を興した者又は公同の事業に尽力した者に授与されます。

谷岡理事長は、多年にわたり教育事業に携わり、教育施設の充実を図ってきたこと、子弟の育成に努め教育の振興に寄与してきたことが認められ、藍綬褒章を受章されました。



植田辰哉氏 母校へ帰る



平成25年3月11日 就任記者会見

前・全日本男子バレー部監督の植田辰哉氏(48)が平成25年4月から大阪商業大学の特任教授に就任されました。

植田先生は、1983年に本学商経学部に入学し、バレー部に所属され、現役選手時代は、1985年に大学日本代表としてユニアード神戸大会に出場し金メダルを獲得。その後、社会人として1992年のバルセロナ五輪に出場するなど華々しいご活躍をされています。

現役選手引退後は監督として2008年の北京五輪で全日本を率い、平成24

年のロンドン五輪では最終予選で敗れ、辞意を表明しました。その後、大阪商業大学では、バレー部の監督就任も打診しましたが、日本バレー部協会での選手強化の役割もあるため、今回、特任教授という形で、バレー部に限らず大学教育全体にかけて幅広い指導を引き受けさせていただきました。現在は、生涯スポーツ論、組織マネジメントなど、不定期で講義も担当いただいています。

植田先生は「2020年の五輪には、本学からオリンピアンを輩出するのが私の夢である」と抱負を語っていました。

大阪商業大学Facebookページをぜひご覧ください!

大阪商業大学では、大学に関するさまざまな情報を、ソーシャルメディアを利用して多くの方と共有していきたいと考えています。昨年10月に開設以来、すでに500名を超える卒業生や在学生、関係者から「いいね!」をいただき、日々たくさんの方にご利用いただいているおります。

「今」の大阪商業大学や後輩が活躍する姿をご覧いただけますので、ぜひ登録の上、応援コメントなどをお寄せください!

Facebookページを通じて、卒業生と在学生との新たな交流が生まれることを期待しつつ、みなさまのご参加を心よりお待ちしております!



[Facebook公式ページ] 大阪商業大学／Osaka University of Commerce

平成25年度 | 校 | 友 | 会 | 本 | 部 | 便 | り |



平成25年度理事会において、今年度の事業計画等が決定いたしました。
尚、今後の詳細につきましては随時ホームページにてお知らせいたしますのでご覧ください。

平成25年度

- 2日: 大阪商業大学 入学式出席
- 18日: 「寄付講座①」開催
- 20日: 平成25年度 第1回常任理事会を開催
- 25日: 「寄付講座②」開催



- 9日: 「寄付講座③」開催
- 17日: 兵庫御厨会 総会
- 26日: 広島県支部 総会

- 1日: 関東支部 総会
- 6日: 校友会会報「校友」第14号発刊

- 富山県支部 総会
- 8日: 高知県支部 総会、福井県支部 総会
- 15日: 平成25年度第1回理事会を開催
- 22日: 愛知支部 総会、愛媛県支部 総会

7月

- 13日~15日: 校友会本部 夏季休業

- 9月~10月: 滋賀県支部 総会
大阪商業大学 前期学位記授与式

10月

- 25~27日: 大阪商業大学大学祭 「第62回御厨祭」26・27日校友会出店参加

校友会と在学生、教職員、地域住民との交流を深めるため、各支部の地元物産などを今回も好評販売へ。



平成24年度御厨祭

- 10月: 大阪商業大学校友顕彰式典(開催予定)
- 11月: 岡山県支部(集い)
- 10月~12月: 石川県支部 総会、三重県支部 総会

12月

- 12月: 学生五者団体との懇談会
- 28日~翌年1月3日: 校友会本部 冬季休業

平成26年

1月

- 1月~3月: 京都府支部 総会

2月

- 3月: 大阪商業大学 学位記授与式

3月

- 平成25年度 4月~ 平成26年 3月 校友会館への宿泊等貸出

第62回大学祭実行委員会より 大学祭へのご案内



第62回御厨祭実行委員長
新子 大貴

先輩!「御厨祭」へ来てください!

10/ 25 (金) ~ 27 (日)

はじめまして。第62回大学祭実行委員会実行委員長の新子大貴です。昨年の大学祭は季節の変わり目にも関わらず、天候にも若干恵まれ大学祭実行委員、来場の方々、教職員の方々のご協力もあり素晴らしい大学祭が行えました。毎年行っているファイナルコンサートも昨年は収容人数ギリギリの1,600人分のチケットも学内・学外共に即完状態で今までの中でも来場者の方々に大変楽しんでいただけたのではと思います。

さて、今年も昨年までと同様、校友会本部・文化会本部・体育会本部・放送局の4団体が協力し御厨祭の運営に全力を取り組んでいます。昨年まで先輩方が継続してきたものを実行委員全員、大切にしていき御厨祭をより良いものにしています。

今年の御厨祭のテーマは「Break Through」です。「Break Through」には「限界突破」という意味があります。昨年のテーマが「Keep On(継続)」と言うことで、今まで先輩方が御厨祭を継続してくださった上で大学祭もあります。

お問い合わせは大学祭実行委員会まで
Tel: 06-6781-8367



母校へGO!

ご利用割引制度について 校友会からのお知らせ U・コミュニティホテル宿泊 30%OFF割引制度
大学行事参加等によりU・コミュニティホテルをご利用される場合「谷岡学園特別優待補助券」お持ちの方に30%の割引制度があります。

ご利用の際には校友会本部(06-6782-7243)までお申し出下さい。補助券を送付いたします。※宿泊利用のみとさせていただきます。



近況報告

report

榎副会長、眞鍋氏に校友顕彰



平成24年11月20日、大阪商業大学校友顕彰式典が行われました。校友顕彰制度は、建学の理念に適う優れた社会的貢献を果たした卒業生に対してその功績を称え表彰するものです。

24年度は校友会副会長である榎 信晴氏(昭和37年卒)、特別表彰として女子バレーボール日本代表監督 眞鍋政義氏(昭和61年卒)が表彰されました。榎氏は卒業後、奈良県議会議員、奈良県五條市長を務め、同市の発展に寄与。その永年にわたる地方自治行政への功績に対し、平成22年に旭日中綬章を受章されました。また眞鍋氏は24年7月に開催されたロンドン五輪で銅メダルを獲得されました。



寄付講座を開講～今年も3氏が登壇～

今年も大阪商業大学公開講座「地域社会と中小企業」(7月19日まで全13回)が始まつた。この講座は平成10年度より始まつた一般社会人も受講できる公開講座として定着し、校友会の寄付講座も今回で5回目の取り組みとなる。

その内、4月18日、25日、5月9日は校友会が寄付講座として開講しており、校友3氏がそれぞれ登壇した。まず、19日は「鯨の食文化と修驗道について」と題し、「料亭 西玉水」代表 乾誠治氏(昭和39年卒)が講演。日本では古くから歴史にも登場していた鯨の食文化について、興味深い内容が展開された。また25日には経営者・社会福祉法人理事長・NPO代表と三足のわらじを履きながら活躍する株式会社藤井産業社長 藤井泰三氏(昭和62年卒)が登壇。ジュニアゴルフ開校や保育所民営化などに携わったことで、自らの考えが利益追求型思考から貢献型思考に変わり、周りがすべてよい方へと変化した体験を語られた。

最後には「中小企業と地域社会との関係」について株式会社藤井産業の小川敬雄氏(昭和47年卒)が登壇。出会いの大切さを説き、「世の為・人の為・自分の為」をモットーに地域社会との関わりを持ち続ける普段の努力をすることが今後の人生に大事と話された。

地域で活躍している中堅・中小企業の経営者や行政、マスコミ、経済団体など広く各分野からの特別講師による実体験に裏打ちされたユニークな公開講座として有意義に行なわれた。



●左から
乾誠治氏
(昭和39年卒)
藤井泰三氏
(昭和62年卒)
小川敬雄氏
(昭和47年卒)

校友

| 編 | 集 | 後 | 記 |

今年も校友会第14号をお届けいたします。今回は頑張る校友の活躍ぶりを特集としてお伝えしました。その人生の軌跡を伺い編集委員として大いに感銘を受けました。各地で在校生の誇りとなる校友の姿を、これからも順次紹介したいと思います。

巷間、少子高齢化で大学をめぐる環境は厳しいと言われていますが、誌面でも紹介しました通り、母校・大阪商業大学は、建学の精神「世

に役立つ人物の養成」を実践し、まだまだ『世に役立つ大学』であることは疑う余地もありません。この会報が校友と母校・大阪商業大学をつなぐ“縁”的一助たらんことをこれからも願っています。

誌面では伝えきれない校友の動きや、消息などはぜひ事務局までお寄せいただきまし

ら幸いです。

2012年度秋季 主なクラブ大会成績

(平成24年12月15日現在)

合気道部

第32回関西学生合気道競技大会

- 乱取競技男子個人 優勝 岡本 哲弥さん(商4年)
- 乱取競技女子個人 準優勝 中嶋 彩華さん(経営4年)

第43回全日本学生合気道競技大会

- 乱取競技男子団体 3位
- 乱取競技男子個人 準優勝 岡本 哲弥さん(商4年)
- 乱取競技女子個人 優勝 中嶋 彩華さん(経営4年)
- 演武競技男子対戦手 優勝 岡本 哲弥さん(商4年)・松村 真生(商4年)

ウエイトリフティング部

- 第52回西日本学生ウエイトリフティング選手権大会 団体 準優勝
- 62kg級 準優勝 津崎 秀成さん(経済4年)
- 105kg級 準優勝 久保 健太さん(公営3年)
- 第60回関西学生ウエイトリフティング選手権大会 団体 優勝
- 56kg級 優勝 丹下 雄介さん(商4年)
- 62kg級 優勝 津崎 秀成さん(経済4年)
- 85kg級 優勝 藤本 健太さん(商3年)
- 94kg級 優勝 下原 卓朗さん(公営3年)
- 105kg級 優勝 久保 健太さん(公営3年)

空手道部

- 第55回全関西大学空手道選手権大会 男子団体 3位 女子団体 ベスト8
- 第56回全日本大学空手道選手権大会 男子団体 ベスト8 女子団体 ベスト16

硬式野球部

- 関西六大学野球秋季リーグ戦 4位
- 平古場賞(新人賞) 村松 鷹介さん(経済2年)

サッカー部

- 第90回関西学生サッカーリーグ《通年》 2部Aブロック 3位

柔道部

- 第31回関西学生柔道体重別選手権大会 100kg級 3位 大西 右司さん(経済4年)
- 第31回全日本学生柔道体重別選手権大会 100kg級 ベスト16 大西 右司さん(経済4年)

ソフトテニス部

- 西日本大学対抗ソフトテニス選手権大会 団体 ベスト8
- 第54回全日本学生ソフトテニスシングルス選手権大会 ベスト32 荒川 篤さん(経済4年)

卓球部

- 関西学生卓球秋季リーグ戦 2部2位

日本拳法部

- 第13回西日本学生拳法個人選手権大会 参段以上の部 準優勝 江口 昌吾さん(経済2年)
- 武段の部 準優勝 矢田 秀人さん(商1年)

第57回全日本学生拳法選手権大会 男子団体 4位

バレーボール部

- 関西バレーボール大学選手権大会 準優勝

ボクシング部

- 第66回関西学生ボクシングリーグ戦 1部準優勝 市村 遼司さん(経済1年)
- 技能賞 京口 純人さん(経済1年)(ライトフライ級)
- 階級賞 市村 遼司さん(経済1年)(バンタム級)

第14号 発行: 平成25年6月

●大阪商業大学 校友会会報「校友」編集委員会

□発行責任者: 高岸 喜治(校友会会长)

□編集相談役: 宇野 幸三(校友会副会長)

□編集委員長: 神戸 直樹(校友会常任理事)

□編集委員: 林 俊春(校友会常任理事)

□編集委員: 竹内 行弘(校友会理事)

□編集委員: 潮 大輔(校友)

●ご意見などお便りは下記宛にお送り下さい

大阪商業大学 校友会

〒577-0036 大阪府東大阪市御厨栄町1-7-22
電話: 06-6782-7243 FAX: 06-6782-6411

<http://www.ouc-koyu.org/>

E-mail: daishodai-koyu@royal.ocn.ne.jp